

Конспект лекции на японском языке

Лекция 1

2. 日本語の品詞 - 単語を文法的な機能や形態などによって分類したもの。
名詞

1、普通名詞 2、固有名詞 3、代名詞 4、数詞

動詞

1、五段活用 2、上一段活用 3、下一段活用 4、カ行変格活用 5、サ行変格活用

助動詞

1、希望 2、受け身 3、断定 4、比況 5、様態 6、伝聞 7、完了 8、推量 9、打消 10、過去 11、丁寧 12、使役 13、尊敬 14、可能 15、自発

形容詞

1、未然形 2、連用形 3、連体形 4、終止形 5、命令形 6、仮定形

形容動詞

1、未然形 2、連用形 3、連体形 4、終止形 5、命令形 6、仮定形

助詞

1、格助詞 2、係助詞 3、副助詞 4、終助詞 5、接続助詞 6、間投助詞

感動詞

1、感動 2、応答 3、呼びかけ

副詞

1、程度副詞 2、情態副詞 3、叙述副詞

接続詞

1、条件接続 2、対等接続

連体詞

1、「た」で終わる 2、「な」で終わる 3、「が」で終わる 4、「の」で終わる 5、「る」で終わる

Лекция 2

こそあど

「これ・それ・あれ」などは、何かを指ししめす言葉です。また、何かをたずねるときには、「どの・どこ・どれ」などの言葉を使います。これらをまとめてこそあど言葉といいます。

4. 可能動詞

「可能動詞」には、「読む」に対する「読める」や、「話す」に対する「話せる」などがあります。いずれも、「～することができる」という意味を含んだ動詞のことです。

「行くことができる」という可能を表す表現には、「行ける」のほかに「行かれる」もある。「行ける」が可能のみを表すのに対し、「行かれる」は自発・尊敬・受身の意味でも使われる。「行かれる」のような「～れる・られる」の形は、古語の「～る・らる」の形から変化したものだが、「行ける」のような可能動詞はそれとの関係は不明である。由来には大きく2説があり、「知る（知れる）」等からの類推で、従来からあった四段（後に五段）活用動詞に対する下二段（後に下一段）段活用の自発動詞が一般化した（類似の動詞の項を参照）という説[1]と、「行き得（る）」のような「連用形＋得（る）」の表現が変化したという説[2]とがある。なお形態的には全く異なるが、「する」に対して「できる」も可能動詞と同様に用いられる（例：「使用する」に対して「使用できる」など）。可能動詞には命令形が用いられにくく、「読めろ」・「走れろ」などの命令的な表現は極めて稀である。

Лекция 3

警護動詞・7. 特別な尊敬語・18. 敬語

尊敬語と謙譲語と丁寧語

敬語には大きく分けて、尊敬語、謙譲語、丁寧語の3つの種類があります。それぞれの違いを理解することが、正しく敬語を使う第一歩です。

■ 尊敬語 相手を尊重する

相手を高く位置づけ、その人を丁寧に扱う言葉。相手およびその動作／状態／所有物などに敬意の加わった形で表現します。

例) 相手の動作や状態を高める／お話しになる、いらっしゃる、おっしゃる、召し上がる

相手や第三者を高める／○○さま、○○さん、○○部長、○○先生、こちらさま
相手側に近い人や会社、所有物を高める／ご家族、ご親戚、御社、お荷物、お手紙

相手の性質や状態を高める／お詳しい、ご立派、ご心配、お淋しい、お元気 お忙しい

■ 謙譲語 自分を謙遜する

自分の動作／状態／所有物などを低く扱う言葉。自分を低めることで間接的に相手を高め、相手への敬意を表します。

例) 自分の動作を低める／お届けする、拝見する、うかがう、お教えいただく、お許し願う

自分そのものを低める／わたくしども、小生、

自分の会社や学校、所有物を低める／弊社、小社、弊社、粗茶、粗品

■ 丁寧語

相手を丁寧に扱う言葉の使い方を丁寧にすることで、話し手が聞き手に対する敬意を表す表現です。

例) ○○です、○○ます、○○でした、○○ました、○○でしょう、○○ましょう、○○でございます

覚えておきたい動詞の尊敬語と謙譲語

敬語の使い方では一番多い間違いは、相手を敬う尊敬語と自分を謙遜する謙譲語の取り違いです。ここでは、就職活動シーンでよく使う動詞の尊敬語と謙譲語の一覧をつくってみました。特に敬語だけに使われる特別？動詞は、尊敬語と謙譲語を対比しながらしっかりと覚えておきましょう。

Лекция 4

■ 敬語だけに使われる特別な形

動詞	尊敬語	謙譲語
いる	いらっしゃる／おいでになる	おる
行く	いらっしゃる	参る／うかがう

来る	いらっしゃる／おいでになる	参る／うかがう
する	なさる	いたす
言う	おっしゃる	申す？申し上げる
食べる	召し上がる	いただく
会う		お目にかかる
着る	お召しになる	
見る	ご覧になる	拝見する
寝る	おやすみになる	
やる (与える)		差し上げる
借りる		拝借する
もらう		いただく
知る／思う		存じる
わかる		承知する

※空欄のところは特別な形はありません。

※走る、笑う、唄う、歩くなど、自動詞の謙譲語は原形のままです。

■規則的な敬語

動詞／尊敬語／謙譲語

話す お話しになる／話される お話しする／お話し申し上げます
読む お読みになる／読まれる お読みする／お読み申し上げます
待つ お待ちになる／待たれる お待ちする／お待ち申し上げます
訪ねる お訪ねになる／訪ねられる お訪ねする／お訪ね申し上げます
連絡する ご連絡になる／連絡なさる ご連絡する／ご連絡申し上げます
相談する ご相談になる／相談なさる ご相談する／ご相談申し上げます
伝言する ご伝言になる／伝言なさる ご伝言する／ご伝言申し上げます

Лекция 5

外来語

がいらいご【外来語】

他の言語から借用し、自国語と同様に使用するようになった語。借用語。
日本語では、広義には漢語も含まれるが、狭義には、主として欧米諸国から入ってきた語をいう。現在では一般に片仮名で表記される。

[補説]外来語と外国語との区別は主観的なもので、個人によって異なることがある。

外〉の言語から、文化の一部として、自国語の体系内に入り込んだ単語。
借用語ともいう。まだ自国語の体系内に入りきらない〈外国語〉と区別される。
1984年現在の日本において、〈ラジオ〉は外来語であり、〈レイディオradio〉は外国語である。二つの言語社会が接触すると、一方が

関心をもった他方のある分野から、単語が借用される。借用は必ずしも一方的ではなく、相互に行われることもある。明治維新まで続いた中国語から日本語への借用は明治維新後少なくなり、逆に中国語が日本語から借用することが多くなった(〈社会〉〈科学〉〈法律〉など)。

Лекция 6

漢字

漢字が生まれたのは古代の中国であり、最古の漢字と言われるのが亀甲等に刻まれた甲骨文である。殷王朝の頃には青銅器にも書かれるようになり、それらは金文と呼ばれる。

東周時代の頃には地方によって異なる字体が書かれたが、天下を統一した秦が漢字の字体も統一する政策を打ち出し、現在では印鑑の書体として知られる篆書が成立した。しかし篆書は書写に時間がかかるため、これを書きやすくした隸書や、速く書ける様にした草書が作られた。

後漢の時代には楷書が、また草書と楷書の間隔的な書体である行書も後から生み出された。楷書・行書・草書の成立により字体はほぼ固定化され、主義之を始めとする多くの能筆家が楷行草の名筆を残している。

宋の時代以降は印刷術が発達し、宋朝体、そして現在本文用書体の主流となっている明朝体と呼ばれる字体が成立した。

日本語において、漢字は平仮名・片仮名と並ぶ主要な文字である。漢字の読みには中国での読み方に由来する音読みと、対応する意味の日本語を当てはめ漢字の読みとした訓読みの2種類が存在する。

日本に漢字が伝来したのは4世紀で、7世紀頃には漢字は日本でも使いこなせる物になっていたと言われる。

日本語を漢字の音を借りて記す方法は、8世紀後半に編集が完了した『万葉集』で大量に使われたため、万葉仮名と呼ばれる。この手法は5世紀ごろに既に行われており、稲荷山古墳金錯銘鉄剣の「獲加多支鹵」

(ウカタケル=雄略天皇)などの使用例が見られる。現存最古の書籍である『古事記』(712年)『日本書紀』(720年)の頃には一般化していたらしく、原則漢文で書かれた『日本書紀』の注には「尊や命は美舉等(ミコト)と訓む」などと付けられているほか、歌謡はほぼ全て万葉仮名で記載されている。万葉仮名は後に草体化され、後の平仮名に発展した。一方、9世紀頃から漢文を訓読みする際に漢字を省略した文字が使われ、これが後の片仮名に発展した。

明治維新の直前に、鉛活字による活版印刷が本格的に使用され始め、この頃には現在の印刷書体に近いデザインの物が製作されている。

1946年、日本の公文書等での漢字の使用範囲を定めた当用漢字が制定され、一部の漢字については筆記体に近い字体や略字が採用された(これを新字体と言ひ、それ以前の漢字は旧字体と呼ばれている)。1981年にはさらに字数を増やした常用漢字が制定され、2010年には常用漢字が改定されてさらに字数が増えた(逆に、使用頻度の低い文字のいくつかが常用漢字から削除された)。

12. 西暦1970年、高齢化社会になって行くことが明らかとなり、1980年より政府は、高齢者の殺害を行うようになった。この際、認知症を普及させ、認知症により目行方不明になってもらうのが、政府の狙いであった。

そのため、病原菌である、カビ科の大日本赤斑吸血角虫を日本中に放した。しかし、実際に失踪しても、すぐに発見されてしまうことが多く役に立たなかった。そこで、認知症で行方をくらましたかのように、暗殺し遺棄する方針に定めた。

殺害を誰が実行するのかは、その当時問題になっていたフリーターを教育することで解決した。その後、殺害を専門職にする者も現れ、それが世に言う NEET である。

[編集]

若者言葉

まじ? 超ヤバイんだけど。

上記のような文章の場合、「まじ?」は確認の意を持ち、「ヤバイ」とは、8倍と言う意味であるから翻訳すると、「本当ですか? (競馬で) 8倍を超えた倍率の馬券をあてたのですか?」と言う意味である。

本当? まじウザイね。

訳は「本当に、本当で? 鬱陶しいよ。」である。「本当?」は事実であるかを確認しているが、相手の回答はさておき、勝手に鬱陶しいと相手を拒絶している。

あいつ、KY。

訳すと「あいつ、漢字読めない。」つまり、馬鹿の新しい言い方。

ビミョー

訳は「カツオだしの、ほのかな香りと、この食感が絶妙。」となり、あまりのおいしさに舌を巻いている。

Лекция 7

語句変化

短くするために、長い名詞を略す (サラリーマン → リーマン、警察 → サツ、お母さん → ババア など)

短くするために、長い動詞や形容詞を略す (うざったい → うざい、しらばくれる → ばっくれる、かったるい → タルい など)

短くするために、動詞を形容詞化する (違くて、好きくない など)

例 1: 今疲れいから後で！ 訳:今は疲れているから後にしてください。

例 2: 今日の彼は狂かった。 訳:今日の彼は狂っていた。

例 3: 腹減かないといいのに。 訳:お腹が減らないと良いのに。

砕けて聞こえるように、形容詞を作り出して形容動詞を置き換える (今風な → ナウい、不吉な → 厄い、簡単な → 楽(らく)い、チャラチャラな → チャラい など)

例 1: 今日来るやつはフェマらしい。 訳:今日来る人は有名らしい。

例 2: お前今日ナチュクねーな。 訳:あなた、今日は自然じゃないですね。

例 3: 日本はパラくてダメだな。 訳:日本は無防備でダメだ。

例 4: あれ、イネいやつ居ねえって絶対。 訳: あれを可能な人は居ないと思います。

自分にはこう見えただけだと言い逃れをする為に、接尾語「げ」を付ける (良さげ、無さげ など)

例 1: あの人、男げだけど、何か違げ。 訳:あの方は、男のように見えたが、何か違うようにも見えた。

例 2: 解答のここ、確実に違ってるげ。 訳:解答のこの部分は確実に違っているように見える。

流行っていると見せかけるために、「系」を付けカテゴライズする (癒し系、ヴィジュアル系、オタク系 など)

例: 私の彼、キチガイ系なんだ (笑) 訳:私の彼はキチガイです、ハハハ。

Лекция 8

話し言葉と書き言葉の差異

世界には、日常使う言葉が「話し言葉」と「書き言葉」があります。話し言葉とは日常の会話に用いる言葉で、物事を「音声で伝える」ときの言葉です。書き言葉とは文章を書き表すときに用いる言葉で、物事を「文字で伝える」ときの言葉です。しかし、この2つの言葉はいったいどんな関係と差異がありますか？日本語をよく勉強するために、本題はこの問題について検討します。

まず、言葉の特徴から検討します。話し言葉の特徴は以下のようです：

- (1) 文の長さは比較的短く、理解しやすい語彙が多く使われます。
- (2) 敬語・感動詞・終助詞・疑問詞などが多く用いられます。
- (3) 倒置・中断・語順などの乱れがおきやすい。
- (4) 男性語・女性語などの違いや、方言が表れます。
- (5) 断りや断定などの表現では、柔らかみを持たせるため、なるべく直接でな表現を避けることが多い。

(6) 聞いただけでは区別できない場合があります。たとえば「使える」も「支える」も「つかえる」と同じ発音をします。でも、話し言葉は声の調子や話し方で、意味を判断できる場合があります。例えば、「橋」と「箸」。

(7) 話し手の表情や顔色を見て、理解を深めることができます。

(8) 特に親しい人との対話を除いては、必ず「です・ます」体が使われます。

書き言葉は話し言葉といろいろな差異があります。書き言葉の具体的な特徴が以下です。

- (1) 文は長め、かなり難しい語彙も多く使われます。
- (2) 文の構造は規則に従ってものが多く、省略はほとんどない。文に修飾語などが使われ、重文が多くなります。
- (3) 文体の種類として・漢文体・和文体・文語体・論文体などがあります。
- (4) 書き手からの発信が一方的であるため、書き手は伝えたいことを明確に表現しなければならない。だれが読んでも理解できるように、共通語を用いたり、文章を整えたりする必要があります。
- (5) 書かれてあるので、読み手は何度も読み返すことができます。
- (6) 漢字や平仮名、片仮名を使い分けることで視覚に訴えるなど、意味が伝わりやすいように工夫することができます。
- (7) 文体はそのジャンルによってさまざまであるが、論文、公文書などでは「できる」体が使われています。

次は、話し言葉と書き言葉の違う表現の例です。

- (1) です／ます → である
- (2) でも／だけど → しかし
- (3) 物価が高くて住みにくい → 物価が高く、住みにくい
- (4) 人に頼らないで、自分でする → 人に頼らず、自分でする。
- (5) とっても／すごく → 非常に／極めて
- (6) あんまり → あまり
- (7) 答える → 回答する

以下は、もっと具体的な例です。すなわち、話し言葉と書き言葉で同じ意味を表わす時のこの言葉の違う表現です。

話し言葉：今のところ、そのことはおこりそうにもない。それがまずおかしいのさ。

書き言葉：現階段では、そのことの起る可能性はない。そのこと自体が不可解なのである。

これから、話し言葉は書き言葉より語彙がもっと理解しやすく、感慨語などが多く用いられて、判断などの表現が柔らかいことを見えます。

この二つの言葉のそれらの差異が起こる原因は何ですか？以下、ちょっと調べてみます。

(1) 話し言葉が現場会話時に使われるから、相手にすぐ返事するのを要求されています。だから、文の長さは比較的短く、自分の頭にある有限的な語彙だけが使われます。しかし、書き言葉には、書き手が自由時間があって、辞書などを参考できて、考えを重ねたり、繰り返して直したりすることができます。専門家とか編集者とか校正することもあるかもしれません。だから、書き言葉は比較的に永久的で、客観的で、厳密的で、照合することとか弁駁することなどのことにとって便利があります。

(2) 話し言葉は、常に、人と人が面と向かって交流するから、外部環境をよく利用する条件があります。例えば、聞き手は話し手のアクセントや手まねや表情などから相手の意味がもっとよく分かります。だから、感慨語、男性語、女性語などの言葉が多く使われて、文も短くて、倒置、中断などの表現が多くあります。そして、相手は前にいってから、直接で断ることなどがよくないなので、曖昧な表現がよく使われます。それに対して、書き言葉は外部条件が欠乏します。

(3) 話し言葉は世代につれて著しく発展します。特に若い人たちは文法などに興味がないで、[ら抜き言葉]や[アニジュアル言葉]などがよく使います。新しい単語もよく作られます。それに比べて、書き言葉は保守的で、昔から保留された言葉が多くあって、時代によってすぐ変わってくる話し言葉と同じではありません。

私の調べたの話し言葉と書き言葉の差異とその差異が起こる原因は以上のようなのです。この2つの言葉は、それぞれ特徴と差異がありますが、役割の分担が行われます。どちらが優れているというのではなく、お互いに補完しあっているのです。状況を考えながら適切に用いる必要があります。

Лекция 9

けいよう - し【形容詞】

国語の品詞の一。活用のある自立語で、文中において単独で述語になることができ、言い切りの形が口語では「い」、文語では「し」で終わるものをいう。「高い・高し」「うれしい・うれし」の類。事物の性質や状態などを表す語で、動詞・形容動詞とともに用言に属する。口語の形容詞は活用のしかたが「(かろ)・く(かつ)・い・い・けれ・〇」の一種であるが、文語の形容詞にはク活用・シク活用がある。

2 広く、物事の性質や状態を表す言葉。品詞論の「形容詞」に限らない。「保守的というのが彼らに冠せられる一だ」

Лекция 10

ぶんぼう 文法敵な特徴

1. 日本語では文法上、男性と女性、人間と物を区別しません。
2. 日本語では文法上、物が数えられるかどうか、単数か複数かは問題になりません。
3. 日本語には3種類の文があります。

めいしぶん めいし お ぶん
名詞文（名詞で終わる文）

どうしぶん どうし お ぶん
動詞文（動詞で終わる文）

けいようしぶん けいようし お ぶん
形容詞文（形容詞で終わる文）

それぞれ構造が異なり、表現内容に役割分担があります。

それぞれの文が、文法上文として認められるために最低限必要とする情報は、それぞれ名詞、動詞、形容詞だけです。主語も、他動詞の目的語も、その目的語の数も、必要ではありません。

4. 上記3種類の文は、それぞれ他の情報を付け加えることによって、さらに複雑化することができます。付け加える情報は、副詞などは別として、おおむね名詞の後ろに助詞を付けることによって作られます。

逆にいえば、ほとんどの場合、名詞は単独では情報として文に取り込むことができません。また英語の前置詞（in, on など）とは違い、

助詞^{じょし}そのものは何^{なん}の意味^{い み}ももっておらず、名詞^{めいし}に付加^{ふ か}されて初めて^{はじ}特別な^{とくべつ}機能^{きのう}を発揮^{はつき}します。

例^{れい}

りんご → りんごを、りんごに、りんごで、など

名詞^{めいし}を情報化^{じょうほうか}するために使われる助詞^{じょし}は7つしかなく、そのうちどの助詞^{じょし}を使うかは動詞文^{どうしぶん}の場合はおおむね動詞^{どうし}によって決まります。

例^{れい}

Лекция 11

花屋^{はなや}で 買う^か。花屋^{はなや}が ある。花屋^{はなや}に 行く^{ゆく}／ある。

5. 日本語^{にほんご}では、修飾^{しゅうしょく}する語は常に修飾^{しゅうしょく}される語の前にきます。したがって、語順^{ごじゆん}としては動詞文^{どうしぶん}における動詞情報^{どうしじょうほう}は文末^{ぶんまつ}にきます。しかし、上記^{じょうき}のとおり助詞^{じょし}の選択^{せんたく}は後ろ^{うし}にくる動詞^{どうし}によって行われるので、会話^{かいわ}という状況^{じょうきよう}のなかでは相手の言う^{あいて}ことを最後まで聞かなくとも助詞^{じょし}を聞いた段階^{だんかい}で動詞情報^{どうしじょうほう}をある程度予測^{ていどよく}することが可能です。

6. 日本語^{にほんご}の最大^{とくちよう}の特徴^{きほんてき}は、基本的な助詞^{じょし}の使い方^{つか}や語順^{かた}が会話^{ごじゆん}や文章^{かいわ}の流れ^{ぶんしょう}のなかで変化^{へんか}することです。

例^{れい}

机^{つくえ}の上^{うえ}にりんごがある。

でも、みかんは椅子^{いす}の上^{うえ}にある。

バナナも椅子^{いす}の上^{うえ}にある。

パイナップルはどこにある？

戸棚^{とだな}の中^{なか}には何^{なに}がある？

7. 日本語^{にほんご}では、動詞^{どうし}を変化^{へんか}させ、なおかつ動詞^{どうし}の後ろ^{うし}に様々な表現^{さまざま ひょうげん}を付加^{ふ か}することによって動詞情報^{どうしじょうほう}を作り出します。

書く^か、書き^か・ます、書い^か・てもいい、書か^か・なければならない
書け^か・ば、書こ^か・う、書け^か・る、書か^か・せる、書か^か・れる

